



206号

2015 / 9 / 1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli-san.com/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp
◆‘わんりい’ HPのアドレスが上記になりました。



「お出迎え」 雲南省元陽・老虎嘴棚田にて 撮影：2015年3月2日

撮影：高橋節子

夕日の撮影スポットとして有名な老虎嘴棚田。この日の日没は6時半だというのに3時前から人が集まりだした。入口の駐車場で、観光バスが着くたびにイ族の女性たちが観光客を出迎える。彼女たちのお目当ては、三脚や撮影道具がぎっしり詰まった重たい荷物を下の展望台まで運ぶこと。日銭を稼ぐために急な坂道を一日に何往復もする。だから、ほら、このスタイルの良さ。

‘わんりい’ 9月号の目次は最終ページにあります

中国の花の代表と言え、四君子と言って、梅・竹・蘭・菊が挙げられ、水墨画の題材としてしばしば取り上げられます。昔の中国の人たちは、花の様子を士大夫のあるべき姿になぞらえて、愛でたようです。因みに、竹は花ではありませんが、まっすぐ伸びて、雪の重みに耐え、風に揺れながら基は動かず、いつも緑の葉を保っているところが好まれたようです。歴史的、文化的には、四君子が中国の花の代表ですが、庶民の生活の中では、又違う花が好まれています。

皆さんは、中国の人々の生活の中の花と言ったら、何を思い浮かべますか？ 私は、中国の方に申し訳ないのですが、中国の人たちは、花なんか余り気にしておられないのではないかと考えていました。それと言うのも、昔見た中国の映画は暗い物語が多く、画面に花など出て来ませんでした。おまけに、1990年代に初めて北京を旅行した時、胡同(フートン(横丁の意味))は両側レンガの塀で、時たま塀の崩れた所から覗くと、生活用品がいっぱいで、なん所帯も住んでいるように見えて、とても花の入り込む余地は無いように見えたからでした。

ところが、2001年に初めて、長期滞在をする積りで北京に行くと、空港から宿舎に行く車の中から、幹線道路(環状2号線)の中央分離帯のフェンスに沿って綺麗な花が咲いているのを見て、とても感激しました。まだ清明節の前で、かなり空気は冷たかったのですが、いいお天気で、お花に歓迎されているような素敵な気分のなったことを覚えています。

このお花、一見バラのようですが一重が多くて、すっきりとしています。後で調べてみると、庚申バラ、中国名は月季または月月紅ユエチー ユエユエホンと言って、バラの原種の一つだそうです。中国にはもう一つマイカイというバラ科の植物があり、こちらは八重咲きですが、これも園芸種の交配に使われたようです。このマイカイは玫瑰と書き、中国語教室では玫瑰メイグワイ=バラと習います。日本人は、バラといえば園芸種の薔薇を考えますね。

それで、日本人にとっては、薔薇=玫瑰となるのですが、北京の人たちは、この三種を厳密に区別しています。園芸種の薔薇は同じ字を使って、チアンウェイ(qiángwēi)と言います。

中国語の教科書には、玫瑰=バラと書いてあり、珍しくしっかり頭に入っていたので、一見バラに良く似た月季を見と、“バラ(メイグワイ)が咲いている”と言ってしまい、その度に“これは月季である”と訂正されました。月季は、花期が非常に長く、4月中頃から11月終り頃まで咲いています。花期が長いせいか、北京の人々には一番身近に感じられる花のようです。

今になって、昔見た胡同の殺風景な様子は、四合院の建築様式のせいだと分かりました。四合院の中庭は、喬木が木陰を作り、花が咲く素敵空間だそうです。そこには、きっと月季の花も咲いていたのでしょう。尤も、革命後の住宅難の時代に、なん所帯も住むために改造され、壊されていった四合院が沢山ありました。新しく建てられた高層のオフィスビルやマンションは、フェンスこそありますが、外から見えるところに緑や花や水を配し、四合院とは反対のコンセプトで造られているので、町の雰囲気も緑や花の多い美しい街になっています。しかし、街の中心部だけでも、昔ながらの胡同の雰囲気を残して欲しかったのにと、今でも多くの人々が残念に思っています。

身近に咲いていて素朴な月季の対極に行く、牡丹も北京の人々は好きです。殆どの公園には、牡丹を植えた牡丹コーナーがあります。学校の構内や、寺院にさえも牡丹だけを植えた一角があり、花の盛りになると多くの人々が花を見に集まって来ます。しかし、牡丹は月季と違って、花の盛りが短いので、3週間もすると本当の見ごろは終わってしまいます。そのためか、牡丹を写生する人達を多く見かけます。そのスケッチを基に、水墨画で牡丹を描きます。水墨画の牡丹は、本物の花のように、時には実物以上にあでやかに紙の上に蘇り、軸に収まります。(続く)

bú jìng hé yǐ bié hū ?
不 敬 何 以 別 乎 ?

けい ぜ ず ン ば 何 を 以 て 別 た ン や 〈為政第二〉

う え だ あ つ お
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

今回は敬老の日にちなんで、「孝」について考えてみましょう。『論語』に「弟子入則孝，出則弟(dì zǐ rù zé xiào, chū zé dì)」(弟子入りては則ち孝、出でては則ち弟)〈学而第一〉という言葉があります。若者は、家の中では親に孝行を尽くし、外で働く時には目上の人を重んじるという意味です。「弟子(dì zǐ)とは年の若い後輩を指します。また、文末の「弟(dì)」とは、後輩として先輩を立てる、という意味です。「悌」と書くこともあります。

孔子は春秋時代に活躍した人です。この時代は天下に君臨していた周王朝の権威が廃れ、戦乱が相次ぎ、弱肉強食の風潮が蔓延していました。各国の君主たちは、生き残るための手段として、挙って富国強兵に励んでいました。「臥薪嘗胆」の故事で知られる呉と越が戦い、兵法の元祖孫子が活躍したのもこの頃です。親子兄弟が権力を争って殺しあう例も珍しくありませんでした。当然のことながら、それまで社会の安定を保つ唯一の規範であった仁義とか礼節という道德観は、次第に顧みられなくなっていました。こういう混乱の時代にあって、敢えて戦争を否定し、仁義礼節の復活を唱えたのが孔子でした。そして孔子は混乱の收拾と社会秩序回復の基本を、家族の安定、特に親子兄弟間の序列の遵守に求めました。ここから生まれたのが「孝」の教えです。

かつて齊の君主景公が政治について孔子に尋ねた時、孔子は「君君，臣臣，父父，子子(Jūn jūn, chén chén, fù fù, zǐ zǐ)」(君は君たれ、臣は臣たれ、父は父たれ、子は子たれ)〈顔淵第十二〉と答えています。君主と臣下、父と子、それぞれが己の分を守り、それぞれの務めを果たすことが政治の基本となるという意味です。これで見ると孔子の唱

える「孝」の教えは、単に親を大事にするだけに止まらず、社会秩序のあり方と深く結びついていたことがわかります。

また一方で孔子は、年若い弟子の子游の問いに、「今之孝者，是謂能養。至於犬馬，皆能有養。不敬何以別乎？(Jīn zhī xiào zhě, shì wèi néng yǎng。Zhì yú quǎn mǎ, jiē néng yǒu yǎng。Bú jìng hé yǐ bié hū?)」(今の孝は是れ能く養うことを謂う。犬馬に至るまで能く養うこと有り。敬せずんば何を以て別たんや)〈為政第二〉と答えています。親を養うだけが「孝」ではない。家畜の犬や馬だって養っている。尊敬の気持ちがなければ、犬や馬を飼うのと何の区別があろう、というわけです。ここでは人としての心のあり方を問題にしています。「養老」と「敬老」、どちらにも親孝行の意味がありますが、これを見れば、孔子はこの二つの言葉を厳しく使い分けていたことがわかります。

また、同じく若い弟子の子夏には、「有事，弟子服其勞。有酒食，先生饌。曾是以為孝乎？(Yǒu shì, dì zǐ fú qí lǎo。Yǒu jiǔ shí, xiān shēng zhuàn。Céng shì yǐ wéi xiào hū?)」(事有れば、弟子其の勞に服す。酒食有れば、先生に饌す。曾ち是を以て孝と為すか)〈為政第二〉とも言っています。何かする事があれば代ってしてあげる。御馳走があれば差し上げる。これだけで孝といえるだろうか、というわけです。ここでいう「先生」とは年配者を指しています。ここでもやはり心のあり方が問題になっています。心のあり方としての親子関係、社会秩序のあり方としての君臣関係、孔子はこの二者を一体のものと考えていました。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)

【前回までのあらすじ】 3度目の科挙の試験に落ちたうえ、道中で路銀を全部盗まれ無一文になった柳という書生は、妖怪や白狐が出没するという噂の古寺の世話になり失意の身を養っていました。ある夜から自分は「白狐」と名乗る美しい女性が柳のもとに訪れるようになり二人は愛を契る関係になりました。そのようにして2か月が過ぎ、柳は故郷へ帰ることを決めました。「白狐」から「自分も故郷へ伴ってほしい」と懇願された柳は、「白狐」に鈴児という名前を付け、二人は共に柳の実家へ帰って結婚生活を始めました。

鈴児は柳と故郷へ帰る際、沢山の財宝を持参しましたので、柳の故郷の古びた家を修繕したり、良い畑を買ったりして、際立って裕福とは言えないながら二人は何も心配することのない生活を続けていました。

そして、瞬く間に二年の歳月が経ちました。柳は何不自由のない生活の中でも、やはり科挙の試験を忘れることはなく、勉学に励み受験の準備をして来ました。

鈴児はそのような柳の姿を見て言いました。

「科挙の試験に備えて勉強する方たちの目的は出世して豊かな生活をしたいと望むからでしょう。私たちは、今はもう何も支障のない生活をしています。あなたはどのようにして試験勉強を続けて出世したいと思われるのでしょうか」

「いや、生活はそなたのおかげで豊かになってはいるが、私はどうしても科挙の試験に合格して役人になりたいと思っているのだ。それが私の生涯の目標だ」

と柳が答えました。

鈴児は頭を横に振りながら何事かを心配してい

る様子でその様な柳の姿を嘆いているのでした。

このようにして、柳書生は、毎日読書し、鈴児は普通の女性のように織物を織ったり、こまごまと家事をしたりしていました。

ある日、鈴児が外出している間に一人の男が柳を訪ねてきました。初めて柳が受験した時に知り合った男で、初回の試験で主席合格した秦槐^{しんかい}という男です。

「やあ、久しぶりです。いろいろご活躍しているんじゃないかと聞いている。私のほうは恥ずかしながらいまだ試験勉強に没頭している」

「やあ、本当に久しぶりだね。いい家に住んでいるんじゃないか。結婚したのか。奥さんはどこのお嬢さんだったのかね。綺麗な人のようだね」

「いやあ、ごく普通の家の娘だ。顔はあそこの絵に描かれているとおりだ」

柳は壁に掛けてある絵を指して簡単に答えました。秦槐は画像をしばらく見つめていました。

秦槐が帰った後で鈴児が家に戻って来ましたが、何か落ち着かない様子でした。

それからしばらくして、いよいよ柳が試験のために上京する日が明日という日になりました。また秦槐が柳のそこへやってきました。

「本当に試験に行くのか。無駄だよ。」

「これから試験を受けに行こうというときに、なんでその様な話をするのですか。無駄というのは何か理由があるのですか」

「では、その理由(わけ)を教えよう。いいかね。あなたの妻は狐だという話ではないか。狐だと知りながら妻にする人間が役人になれると思うか」

柳は秦槐が妻の本当の姿を知っていることに吃驚し、同時に体中から力が抜けてゆくようでした。

「どうしたらいいのか」

「殺すしかないだろう」

「そんなことは私にはとてもできない」

「それなら出世は諦めて、狐の妻を守るしかない。どちらを選ぶかはあなた次第だ」

柳は返す言葉なく黙り込んでしまいました。そして、鈴児の優しいところを一つ一つ頭に思い浮かべました。しかし、我に返って考えればこのままで自分の人生を終わらせてしまうのは本来の望みではありません。

「殺さなくとも済むような方法は他にないのか」

「ない。狐は君にしっかり着き纏って離れないはずだ」

柳は心を決めて訊ねました。

「どのように殺すのだ」

秦槐は懐から一つ紙の包を出すと、柳に言いました。

「いいか、この薬をご飯に混ぜて食べさせよ。簡単ではないか」

柳は躊躇しながらも薬を受け取りました。

晩ご飯の時、柳は薬をこっそりと鈴児のスープに混ぜました。愈々鈴児がそのスープを飲もうという時になって深い後悔が柳の心の奥深くから湧き上がってきました。しかし、鈴児は止める間もなく既にスープを口にしてしまっていました。

スープを飲んだ鈴児の顔が白く変わり倒れたのを見た柳は慌てて鈴児を抱きあげ医者のところに行こうしました。

その時、鈴児が柳に言いました。

「もういいのです。この日が必ず来ると分っていました。私はあなたの妻になれて満足です。聞いてください。実は、私は狐ではありません。もう十年も前になるのですが、あなたが受験のために

上京される道中で大きな蛇が女の児に巻きついてるところをごらんになりました。あなたはご自分の危険を冒してその児を救ってあげましたわね。覚えていらっしゃいますか？ 私はその児なのです」

柳は思い出しました。蛇から女の児を救って、家まで送り届けたことがありました。妻は狐では

なく人間だったのです。その児は綺麗な女性に成長して、しかも自分の妻になって夢のような日々を共に過ごしていたのです。

鈴児の声は次第にか細くなってゆきましたが、尚も力を振り絞って話を続けました。

「二年前、寒山寺であなたをお見掛けしてすぐに私を救ってくださった方だと分かりました。どんなふうに分かればよいかかわからず、冗談半分で「白狐」と名乗り、あなたの許に通うようになりました。あなたは何も疑わず私の話を信じて下さいました。私はあなたに二年間お仕えすることができ十分満足しております。死んでも心残りは何も…」

ここまで話すと鈴児は力尽き意識が遠のいて行きました。しかし、まだ何かを言いたい様子で、唇だけがかすかに動くのですが声にはならず、がっくりと頭を落とすと息絶えてしまいました。

柳は何日間も深い悲しみに打ちのめされていました。そして秦槐の勧めに乗った自分を強く責めました。しかし、科擧の試験が目の前に迫っています。この機会を逃せば次回はまた三年先になります。柳は周りの人々に、鈴児は急病で亡くなったと告げ、葬式をそこそこに済ますと上京しました。

(続く)



満柏 画

杞

憂

私の調べた諺・慣用句 41

三澤
統

皆さんは“杞憂”という言葉をご存じと思います。「そんな心配は杞憂だよ」、「今回の不安は杞憂に終われば良いが」などと使われますが、いらざる心配、取り越し苦労などの意味で用いられます。

ところで杞憂の「憂」は憂えるの意ですが、「杞」とはどういう意味なのでしょう？

その種明かしが今回のテーマです。

辞書にはそれぞれ以下のように載っています。

▲ 小学館 デジタル大辞泉：

「杞憂 心配する必要のないことをあれこれ心配すること、取り越し苦労」

(実は、デジタル大辞泉 には『列子¹⁾』天瑞の故事からとして出目が解説されているのですが、それを記すと種明かしになってしまいますので、ここでは伏せておきます)。

▲ 小学館 中日辞典：

中国語に“杞憂”を意味する四字成語があります。

「杞人忧天 qǐ rén yōu tiān 杞憂である。取り越し苦労をする。いらぬ心配をする」



昔、杞²⁾の国に、一人の肝が小さく、神経質な男がおりました。彼は常にある奇妙な問題が頭に浮かんで、理由の分からない不安な気持ちになるのです。

その日も、彼は晩御飯を食べ終わった後に、暑い日でしたので門の前のベンチに座って、団扇で煽ぎながら独り言を言いました。

「もしもある時、天が突然崩れ落ちてきたらどうしよう？ 我々は逃げるところが無いではないか、そしてたら生きたまま押しつぶされてしまう、実に無念なことだ」

以来、彼は殆ど毎日のように、この問題で憂鬱に



満柏 画

なり、悩み続けました。

友人たちは、彼が一日中ぼうっとし、憔悴しきった様を見て心配していました。その内、彼が憔悴した理由がわかると彼に言いました。

「ねえ君、天が落ちてくるなんてありえないよ。例え本当に天が落ちて来たとしても、君が心配したところで、解決できる問題じゃないのだから、そんなにくよくよしなさんな！」

しかし、彼は他人が何と言おうとも、誰の言うことも信用せず、依然として、人から見たらこの愚にも付かない問題を心配し続けるのでした。

後の人は、この故事に倣って、ありえそうもないことを心配することを“杞人憂天”というようになりました。

〈注記〉

1. 列子(れっし)：中国、春秋時代の思想家。名は禦寇ぎょこう。同名のその著書「列子」は中国の道家思想書で、故事・寓話・神話を多く載せている。

「列子」が出典である故事成語には次のようなものがある。

「杞憂」、「朝三暮四」、「愚公山を移す」

2. 杞(き)：周代の国の名。夏の王朝の子孫が封ぜられ、雍丘ようきゅう(今の河南省杞県)を都とした。

(新漢語林より)

(出典：中華成語故事大全 http://blog.sina.com.cn/s/blog_4cabd2fc0102e0jf.html)

tái fēng
台 風

méi yǒu rén qù hǎi bīn ,
没 有 人 去 海 滨 ，
méi yǒu rén qù yóu yǒng ,
没 有 人 去 游 泳 ，
yīn wéi lái le tái fēng 。
因 为 来 了 台 风 。

hái zǐ dīng zhe chuāng wài . . .
孩 子 盯 着 窗 外 . . .
dà shù guā dào le ,
大 树 刮 到 了 ，
màn tiān huī mēng mēng 。
漫 天 灰 蒙 蒙 。

hái zǐ yǎo zhe zuǐ chún . . .
孩 子 咬 着 嘴 唇 . . .
zhēn hǎo ! tái fēng !
「 真 好 ！ 台 风 ！
wǒ yào zào gè fā diàn zhàn ,
我 要 造 个 发 电 站 ，
yòng de jiù shì nǐ ya
用 的 就 是 你 呀
—— fēng néng ! 」
—— 风 能 ！ 」

hái zǐ shǒu xīn zuān chū le hàn ,
孩 子 手 心 攥 出 了 汗 ，
shuāng yǎn liàng jīng jīng 。
双 眼 亮 晶 晶 。

dà dǎn de kē xué de zhǒng zǐ ,
大 胆 的 ， 科 学 的 种 子 ，
zài xīn dǐ méng dòng 。
在 心 底 萌 动 。



台 風

海岸に 行く人は いない
泳ぎに 行く人は いない
なぜなら 台風が来たのだから
子どもは 窓の外を見つめている
大木が 風に薙ぎ倒されて
灰色の雲が 薄暗く天を覆う
子どもは 唇を噛み締めて
「すごいぞ！ 台風！
ぼくは 発電所を造るんだ
——風の力を使って！」
子どもは 手に汗を握り
両眼はキラキラ光っている
大胆な 科学の種が
心の底で 萌え動く



天竜山石窟

鄧仁有

天竜山は太原市から南へ約36キロ、海拔1,700mの呂梁山脈の支脈にあります。

天竜山石窟の数はそれほど多くないですが、南北朝時代の東魏、北齊、隋、および唐と五代の五つの時代のものが含まれていて、異なる時代の石窟芸術を表しています。

天竜山石窟は東魏(534～550)の時代から開削し始めました。東魏の実力者、高歓は晋陽(現在の太原)を「別都」つまり第二の都にしました。政権を握っている16年間に高歓が天竜山に「大丞相府」を建てたほかに、避暑宮と石窟も作りしました。高歓の死後、その息子の高洋が東魏の権力を奪い取って、自らが皇帝になり、国号を齊と改めました。歴史上「北齊」と呼ばれました。その時にまた石窟を開削しました。

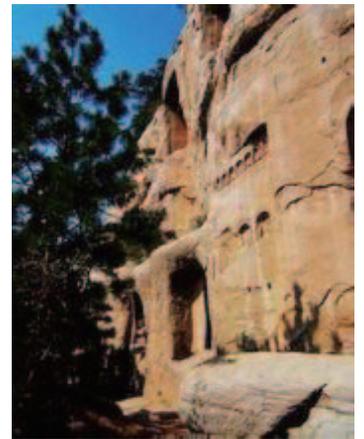
隋の時代に隋の文帝(581年～604年在位)がその息子を晋王に封じ晋陽を守りました。その時にも天竜山に石窟が開削されました。617年に李淵が太原から兵を挙げ唐王朝が建てられました。この時代に天竜山にさらに多くの石窟が開削されました。唐末から五代にかけてもまた石窟が開削され、このようにして天竜山には五つの時代の石窟が開削されたのです。

■ 主な石窟

天竜山は東西二つの峰にわかれています。東には12、西には13の石窟が開削されました。これらの石窟は大同の雲崗石窟や洛陽の龍門石窟ほど規模は大きくはありませんが、中国の重要文化財になっています。



上掲左右写真は中国サイト、百度百科より



東魏時代の石窟は東峰に第2、3窟が開削されました。北齊時代には東峰に第1窟、西峰に第10窟、16窟が開削されました。これらの石窟の造形と技法を見ると、東魏と北齊時代の石刻芸術と建築の素晴らしさがわかります。

第8窟は隋の文帝が即位する前後に作られたと言われています。ここにある仏像は衣服が薄くてしなやかに全身を纏い、服の模様も細かく波打つような感じがします。また顔は無口で厳しく、冷たい印象を人々に与えます。

この天竜山には唐代の18の石窟があります。ご存知のように唐の時代は中国史上とても盛んな時代で、優れている石窟も多かったのです。

北齊や隋の時代の石窟と唐の時代の石窟を比べてみましょう。北齊や隋の時代の仏像はインドからの影響が強く、例えば、眉が弧状になっていて、鼻筋は高く、

長く、目は大きく、唇は厚いです。胸はあまり豊満ではないです。

しかし、唐の時代になると漢民族の特色も取り入れられ、この時期の彫像がより一層すばらしくなっ



竜山石窟を代表する第九窟(唐代)の十一面観音像 (山西省旅游局編「山西游」)

てきました。顔つきが豊満で、眉が細長く、また目が下を向いて、耳が大きく垂れ下がっています。胸も北齊時代よりも豊満になってきました(8ページ十一面観音像参照)。全体に写実的になり、立体感のある豊満な肉体描写が特徴です。この表情を見ると何となく落ち着いた優しい感覚を人々与えるでしょう。

■天竜石窟と日本の学者

1018年(大正7年)に関野貞(せきの ただし)が天竜山石窟を踏査し、1921年にその調査報告を『国華』に発表しました。

1920年に常磐大定(ときわ だいじょう)が、22年に田中俊逸(たなか しゅんいつ)が探査を行い、天竜山石窟調査報告を著し、小野玄妙が天竜山

石窟造像攷を著しました。しかし、これらの報告や写真の発表が天竜山に大きな盗難をもたらしたのです。

■石彫の行方

天竜山石窟には人為的な破壊で価値のあるものは殆どなくなってしまいました。特に、1923年に中国は北洋政府の支配下にあつて、文化財が大事にされなかったため、天竜山内の聖寿寺の僧侶が外国の骨董商と結託して、多くの仏像、その他の彫刻がアメリカや日本などへ流出してしまいました。

現在日本に於いては、京都の岡崎にある藤井斉成会有鄰館に隋代の石造金剛力士立像が、東京国立博物館には石造如来倚像(頭部欠)があります。根津美術館にも天竜山の仏像が所蔵されています。

中国の笑い話 24(「365夜笑話」より)

翻訳：有為楠君代

■第71話：僕は、僕の父親です

或る男の子が、先生に電話で休みの連絡をした。「誠に申し訳ありませんが、ジョンが病気になりました、2、3日休みます」

先生は言った。

「分かりました。お大事にしてください。ところで、あなたはどなたですか？」

「僕は、僕の父親です」

■第72話：“図片”と“お腹の皮”

或る幼稚園の先生は、標準語の発音が余り正確でなく、話に自信が持てなかった。ある日、参観者があつて彼女は緊張していた。下を向いてメモを見ながら、教材の中から一枚の図片を取り出して言った。

「皆さんも小さい図片を取り出してください」

彼女は、「小さい図片(xiǎo tú piàn)」を「小さいお腹の皮(xiǎo dù pí)」と発音した。子供達は、いっせいに服をたくし上げてお腹を出した。彼女は、未だメモから眼を離さずに、発音を間違えたまま子供たちに質問をした。

「小さい図片(xiǎo dù pí)の上に何がありますか？」

子供達は、いっせいに声を揃えて「おへそ(dù qí yǎnr)があります」と答えた。

■第73話：髯が伸びるのを待つ

或る日、一人の男の子が大人のまねをして、床屋へ行って髯をそってくれと頼んだ。床屋の主人は、男の子を椅子に座らせて、石鹸水を顔に塗ると、他の人のところへ行って仕事を始めた。男の子は、待ちきれなくなって、床屋の主人を呼んだ。

「マスター、いつになったら、僕の髯をそってくれるんですか？」

「今、あんたの髯が伸びるのを待っているところだよ」

床屋の主人は答えた。

■第74話：ポケットに手を入れている！

妹は、兄と体重を比べっこしていた。そして、兄は妹より3ポンド多いことが分かった。妹は、それが不満で、もう一遍量ろうと言った。

兄が台ばかりに乗ったところをよくよく見ていた妹は発見して、叫んだ。

「あ、分かった！お兄ちゃんは、私より重いはずよ。だって、ポケットに手を入れているじゃない！」

「おもてなし」で観光立国

先の東京オリンピック誘致イベントで、滝川クリステルさんが演じた印象的なシーンをご記憶でしょう。それ以来「おもてなし」は一挙に、日本の観光産業のキャッチコピーになってしまいました。

私は以前から、現行の日本政府およびマスコミが言うところの「クール・ジャパン」とか「おもてなし」に違和感を抱いています。日本に外国観光客を誘致して外貨を稼ぐことにはなんら反対しませんが、あまりにも「経済効果」のみに重点を置いているところが気になります。いささか揚げ足取りになりますが、「おもてなし」について述べてみたいと思います。

おもてなしの語源は「持て成す」です。意味は「とりなす・とりつくろう」、「(客を)待遇する・あしらう」と「(客に)ごちそうする」とあります(三省堂：国語辞典)。なんとなく“上から目線”を感じるのは私だけでしょうか。相手(外国人観光客)への心配りや謙虚さが感じられませんし、なによりもてなす側が使う言葉ではないと思いますが。

 **観光誘致2000万人が目標？**

官公庁は、昨年(2014年)の訪日外国人は1300万人を超えたと自慢しています。しかしその順位は世界の22番目(26番目というデータもある)です。1位のフランスは8370万人(人口より多い)、2位は米国で7475万人です。アジアでは中国が5562万人で4位、香港が2777万人で11位、マレーシア2743万人で12位、タイ2478万人で14位、マカオ1456万人で19位、韓国1420万人で20位です。東京オリンピックが開催される2020年度の目標の「2000万人」が達成されてもベスト10には入らないのです。

 **「観光」の意味を再考**

「観光は平和の象徴」といわれます。危険なところには観光客が行かないからです。日本の軍需産業は世界では100位程度です。これは「武器輸出三原則」によるところが大きいと考えます。コレだけでも世界に誇れる観光地ではないでしょうか。

観光は英語でSightseeing、観光客はTouristです。観光地はTourist resortです。漢字では「観」は、全体を見渡す・見比べて考える・見渡した景色とあります。観光では他国・他郷を訪れ、景色・風物などを見て歩くこと(三省堂：大辞林)とあります。今日私たちが描く観光のイメージとはかけ離れているようですが、要するに日ごろ自分たちが接しない異なる世界や文化を知ること「何かを得る」、そして「喜びを感じる」こと、すなわち「異文化」を知ることが本来の観光というものではないかと思います。それに引き換え、現在の日本の「観光」の目的にはあまりにも経済効果を強調しすぎます。そうした意味では観光に代わる「新語」が必要なのかもしれません。

 **「見たいモノ・コト」と「見せたいモノ・コト」の誤差**

豊富な観光資源を持つ日本です。お国柄やお人柄が異なるお客様を接遇するのですから、そこでまず考える必要があるのが「見たいモノ・コト」を探す必要があります。あれも・これもと押し付けては、お客様は混乱します。広告の世界が長かった私が、幾多の経験の中で一番多かったことですが、「メーカーは自社製品の自慢をしたがる。しかし消費者の要望とはかけ離れていることが多いこと」で、その選択は大仕事でした。このすれ違いをどう調整するかが課題といえるでしょう。だいが昔、三波春夫という歌手が「お客様は神様です」と名言をはきましたが、その通りです。

政府は地方創生を力説していますが、あくまでもお客様の「見たいモノ・コト」をしっかりと把握することが成功の秘訣です。たとえばインドネシアやマレーシアのお客様(イスラム教徒)向けにハラ

ル認定を取得したり、祈りの場を設定するのも結構なことです。

「爆買い」とは、お客様に失礼です

マスコミは、中国旅行者を「爆買い」と揶揄します。昔から観光客が訪問先で買い物することは習慣でした。旅の思い出に、一緒に旅ができなかった仲間にはおすそ分けとして、饞別をもらった人には感謝を込めて……という具合に旅先でみやげ物を購入することは、旅先での風景や食事共々楽しみの要素です。中国の観光客が電気釜や魔法瓶などを大量に買うのは、製品に魅力があるからです。そうした行為を「爆買い」と表現することは、あまりにも品格がなさ過ぎます。その昔、日本人観光客を「農協ツアー」なんて呼んでいたことを思い出します。

日本を再認識してもらうチャンス

ひと時、日本文化の「異質性」をガラパゴスと自虐的に表現していました。確かにそうした側面があることは認めますが、その異質性を外国の観光客が関心を持ってくれるに及んで、「外国人が日本の社会や文化に興味を持ってくれた」と喜んでいきます。

古代より周囲を海に囲まれ、他の文化の影響をあまり受けず、独自の文化を築き・継承してきたわが国固有の文化は、一面ではガラパゴスといえるでしょう。日本人はその事実には驚き、外国人が日本の社会や文化に興味を持ってくれたと評価しています。そして「日本のどこに魅力があるのか」と確認し、自己を肯定しかけています。日本ブームがもたらしてくれた日本人の心理状態ではないでしょうか。もちろんこの自画自賛がエスカレートしていく可能性もありますが、頭から否定するのではなく、むしろ自らの国の価値を特別視したい気持ちを謙虚に抑え、丁寧に説明して理解を得るべきだと考えます。

「世界遺産」というブランドに狂喜する

今年7月にユネスコに登録された「明治日本の産

業革命遺産」を含めて、日本には19の世界遺産があります。どこの世界遺産も観光客で満員のようです。「強制労働云々」で韓国と物議をかもした「明治日本の……」について私は、「富国強兵→戦争への一里塚」を想像して素直に喜べませんが、地方創生の一環として世界遺産登録をこり押ししたのでしょうか。世界遺産見たさに多くの観光客が呼べれば、その地は潤うのですからケチをつけるのは、いかなものかと思いますが……。

かつて私は、中国中央電視台(CCTV)の番組制作会社の依頼で、中国世界遺産の映像制作費を調達する仕事をしました。中国の世界遺産のスケールや歴史背景は「すご〜い」のひとつこと。

圧倒されました。文化大革命で多くの歴史的建造物が破壊されたといわれますが、残された遺産だけでも「世界4大文明発祥の地」の賈禄を感じました。

それに対して日本の世界遺産、主として文化遺産は精緻ではありますが、スケールの点では中国にかなわないと感じたものです。ともあれ、世界遺産(文化・自然・複合遺産合わせて)は1031件(2015年度まで)登録されており、日本はイラン・オーストラリア・ブラジルと並んで世界の11位だそうです。

東日本大震災と東電の原発事故を経験し、私たちは今、「日本とは何か」「国家とは何か」を考え始めたように感じます。自信をなくした日本人は、外国人の行動にその答えを求めているようです。テレビ報道をはじめとするマスコミや書籍類は競って外国人の評価に一喜一憂しているように見えます。外国人の評価はコロコロ変わるものです。現在の選別された要素によるブームは「今の自分の確認と肯定」でしかないものが多いのではないのでしょうか。

ブームの中には、歴史と伝統を探ろうとする“落ち着いた日本探し”の情報(出版物)もあります。これらを参考に、日本人が歴史の中で何を積み重ねてきたのかを、静かに振り返ってみることも有意義でしょう。文化を守り育て、継承したいという思いを、どれだけ持ち続けられるかが、日本の将来にかかっているように思えます。

フィリピン滞在記 ⑧---フィリピン料理は単純だが、奥が深い(1)

為我井輝忠

フィリピンに来てからの日常生活で食べるものは、もちろんフィリピン料理である。時には日本料理や中国料理を食べることがあるが、やはりフィリピン料理がほとんどである。

フィリピン料理は日本にいた時も何度か、また外国を旅した時にも(香港など)食べたことがあり、決して初めてというわけではない。しかし、何と言っても現地で食べるものと外国で食べたものとはかなり違っていて、最初こちらで食べたものが何だか本物ではないような気がしてしまった。日本やフィリピン以外のところで食べたフィリピン料理の方が馴染みやすく、これらの味になじんでしまうと、フィリピンで食べるものが本物でないような気がしてしまった。正に大きな錯覚である。

フィリピン料理と言うと、「シニガン」や「アドボ」といった料理が挙げられるが、それはホンの一例で、もっと多種多様である。元々中国人がたくさん住んでいるので、中国料理から取り入れたものや材料も中国風なものが多い。日本料理も



シニガン：魚介類や肉などを具とした酸味のある伝統的なスープ

少しながらフィリピン料理に取り入れられているものもある。その筆頭は豆腐ではないだろうか。レストランでメニューを見ていると、“Tofu”という文字が目につき、い

ろいろな料理に使われている。

フィリピン料理のもう一つの特徴は、味付けが濃いことである。暑い国なので保存などを含めてそれなりの濃さが必要なのであろうが、一般的な日本人には何を食べても濃い気がする。スリランカやタイのような国では様々なスパイスが使われているが、フィリピンではあまり使われていない。カレー粉やターメリックのようなものは売られている。実際、チキンカレーなどもレストランのメニューにあり、ライス&カレーを食べることが出来る。しかし、いろいろなスパイスが使われていないせいか味に深みというか変化がない。

この国では、食べ物の味に変化が乏しいような気がする。どの料理にも「カマラシー」というレモンを小さくしたような果実の汁をかけて食べるし、食堂や一般家庭の食卓には唐辛子の入ったヴィネガーが必ず置いてあり、これをかけて食べることが多い。それで、どれを食べても皆同じような味がした。

しかし、フィリピンに来て1年近く経つと、あちこち旅行をして気がついたことは、どの料理も同じような味付けを感じていたものが、微妙な変化があることに気が付くようになった。

同じ食べ物でも地方によって異なるし、使われる材料も少しずつ違っている。例えば、「シニガン・スープ」は魚介類を煮込んだスープであるが、使う材料が違えば味も微妙に違って来る。地方によって使う材料が異なり、しかも、この料理ではビネガーを使うため材料とミックスして酸味の強弱が出てくる。私はこの料理は大好きである。ご飯との相性もよく、ご飯にかけて食べる人が多い。

ご飯と言えば、フィリピンでは実に多種多様



①ハロハロ：かき氷にココナッツミルクをかけ、さらに果物、アイスクリーム、ゼリーなどを乗せ、それらをすべてハロハロして(混ぜて)食べる。 ②バロット：孵化寸前のアヒルの卵を茹でたもので、塩を振り食べる。フィリピン人の好物 ③レチョン・マノック：豚の丸焼きで、内臓を取り出して焼いたもので、祝い事などによく出てくる。

な米がある。マーケットで米売り場をのぞいてみると、10種類以上の米がある。その上、紫色の日本の古代米と同じようなものもある。ただこれはルソン島の北部の山岳地帯で栽培されていて、常用しているのもこの地方の人が多いようだ。私が住んでいるサン・フェルナンドでは売られておらず、バギオのマーケットで何度か購入したことがある。こちらの人は普通一日3度の食事に米を必ず食べる人が多い。しかも、概ね私が食べる茶碗一杯分の3倍くらいの量は軽く食べている。ただ、おかずはそんなに多くは食べない。そのうえ、朝10時と午後3時のミリエンダと言うおやつにも甘いものをたくさん食べる。こんなに食べるので男女とも中年を過ぎると太った人が多い。

米と同時にパンもよく食べられているが、フィリピンのパンはどうも口に合わない。というのはどんなパンも日本の菓子パンのようなものが多く、どれも甘くて、おやつで食べるようなものばかりである。食事で食べるような堅めのパン、例えば、フランスパンや食パンのようなものはあまりない。サン・フェルナンドに“Danish Baker”というパン屋があるが、ここにはフランスパンやライブレッド等が置いてあり、一応何とか満足

いくものがあるので、良くこのパン屋を利用している。ここでは焼き立てのパン(小さな食事用の)が売られていて、常にこれを買求める地元の人でいっぱいである。

私のフィリピンでの食紀行はこれ位であるが、次回はもう少し具体的に料理を紹介したいと思う。特に、中国料理から入ってきたものなども紹介したい。

(続く)

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を!

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついでの折に田井にお渡し下さい。

【'わりい'の原稿を募集しています】

'わりい'は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又'わりい'の活動についてのご希望やご意見及び'わりい'に掲載の記事などについても、簡単にご感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル 'わりい'

🍁 スリランカの日曜学校

現在のスリランカ仏教の一端を担う「日曜学校」は、僧籍を頂く私には素晴らしい人間教育の機関であると思われる。また同時に、仏教伝道所としての役目を担っていると思う。実は私は、スリランカ、ガンパハ市のサママハビハラヤ(日本名「平和寺」) タランガッレ・ソーマシリ住職とのご縁で「スリランカ」を知り、学ばせて頂いており、以下に記すことは、ソーマシリ師にご教示いただいたこととお断りしておきたい。従って、この原稿で紹介する日曜学校は、サママハビハラヤ平和寺の「スチャリトーダヤ日曜学校」の様子である。

日曜学校は「仏法僧」を教える学校である。平和寺境内の一角にその日曜学校がある。授業は日曜日である。雨の降る日は、寺院の中に入り授業が行われている。現在の在籍者は小学校1年生から高校生までである。年齢は5歳から18歳まで、毎日曜日に強制ではなく任意で出席している。実際には、低学年の子供の方が多く占められている。総勢約600人であると聞かされている。

日曜学校で使用される教科書はスリランカ文部省の配布によるもので、全国共通である。主に「仏教」に関する科目で、釈迦や釈迦の弟子たちに関わる物語、仏教史、お経などである。「スチャリトーダヤ日曜学校」の校長は「平和寺」副住職で、ソーマ師の日本出向に依り代務となっている。教師は当の日曜学校の卒業者を主に25人。生徒出席率は80%弱であるが授業料はなく寺の奉仕活動の一端として開かれている。日曜学校では試験も行われ、評価も得られる。政府が行う試験があり、資格試験に合格すると、スリランカ社会で就職する場合に有利な身分証明証となる。スリランカ人口の70%が仏教者であり、現状においては日曜学校に各家庭の子女が参加する意味も大きい。如何に仏教を継承していくか、次代の仏教徒の養成と人間教育を兼ねて日曜学校の教育は取り組まれている。私が知る「平和寺・スチャリトーダヤ日曜学校」は、近

隣の寺院のモデルケースであろうと思われるほど、熱気ある活動と運営がなされている。

「平和寺」を一例としてスリランカの日曜学校の大概を記したが、そもそもの日曜学校という概念は、スリランカの仏教指導者が、イギリスで展開してきたキリスト教の日曜学校運動を学び取り入れたものである。1780年以降、イギリスの産業革命の時代、日曜学校は鉱山や工場で働く幼年者たちの^{ひっばく}逼迫した生活状況に対処するために一考され始められた。この時代のイギリスでは、平日、子どもたちを学校で見かけることは少なかった。日々の生活の糧を得る為に子どもたちまで動員されたのであった。少なくとも日曜日だけが、日曜学校のお蔭で、子どもたちは仕事から解放されたのである。やがて、貧しい子どもたちにも教育が授けられるようになり、日曜学校は宗教を教える場になっていった。

スリランカの日曜学校について語る際、アメリカ人のオルコット大佐を先ず語らなければならない。その人の指導力によって、スリランカの日曜学校など仏教教育制度の復活が推し進められたのであった。当初は設立に困難なことがあったが、先ずはどうか日曜学校が設立された。その後、コロombo市内に次々と日曜学校が設立されるようになり、オルコット大佐が代表する日曜学校はスリランカで初めての「仏教英語学校」の母体となり、今はアーナンダスクールとして、名門カレッジとして有名である。そして日曜学校が殆どの寺院に敷設され、その中の幾校は、仏教平日学校に変わっていった。

日曜学校は、大方の寺院や「仏・法・僧」と結びついて、組織化も進んでいる。法的に設置された目的は、仏教を守り進展を促すことにある。又一方で、仏教を維持させる為の課外授業の感がある。しかし、昨今は社会事情が厳しくなり、スリランカでもエリート校を出なければ就職も難しいと聞かされている。すなわち試験突破学習に挑まなければという考え方が優先してくる

のだ。日曜学校を休んでも塾通いをするのが目的達成の早道となるので日曜学校に通う子供が少なくなるのではと懸念されている。しかしながら、日本人社会で忘れられている世界がまだ、スリランカ社会に残されていると思う。それはスリランカ人の、人間としていかにあるべきかという思想を育てて来たのは日曜学校の賜物であろう。スリランカの耀きと活力は、その礎となる仏教者の育成にあると私は考えている。

🍁スリランカ仏教

近頃、スリランカ仏教がクローズアップされ始めた。門外漢の私が、スリランカ仏教を云々する資格はない。ごく一般人の知識としてのスリランカ仏教のまとめを、タランガッレ・ソーマシリ師監修のもとで記したい。

スリランカ仏教を、上座部仏教(旧称：小乗仏教)とシンハラ仏教の二つに分けて記そう。前者はスリランカだけではなく、タイ、ビルマ、カンボジア、ラオスなどに共通する仏教である。後者のシンハラ仏教は、スリランカ独特の民俗信仰などが混ざり合っていて、基本的なシンハラ仏教寺院は「仏殿・仏塔・菩提樹」の3条件を揃えている。本堂内には、釈尊の立像、坐像、涅槃像をはじめ、仏弟子や過去仏などが安置されている。主たる本尊は釈尊である。信徒は寺院に参拝することによって功德を積むのである。そして功德を積んだものは死後、天界に生まれることができると信じられている。日本のお百度参りに似ている。他方、民衆の中に入り込んでいるのは、仏教寺院境内に配置されているナータ神、ヴィシュヌ神、カタラガマ、バッチェニ、サマンなどのヒンドウ教の神様である。ヒンドウ教の神々は、人間の希望や欲望を叶えて下さる現世利益対象で、そこに救いを求め、供物や賽銭などを差し上げる信仰形態となっている。シンハラ仏教とはそうした信仰も支持している。又、釈尊の教えに忠実に生きようとする上座部仏教者に近い点がある。スリランカの僧侶は、得度、受戒式、僧侶の生活義務などによる布

施と托鉢で生活の糧を得ている。結婚から死に至る通過儀礼においても、寺院と仏教徒の絆は深く強い。仏寺は、シンハラ新年祭、ウエサカ祭、ボソン祭、カティナ会等である。大概の檀家は寺院、僧侶と密接な関係にある。以上、概要を述べたが、社会貢献や奉仕活動も、勿論、行われている。仏教に基づく「日曜学校」の活動も目覚ましいものがある。

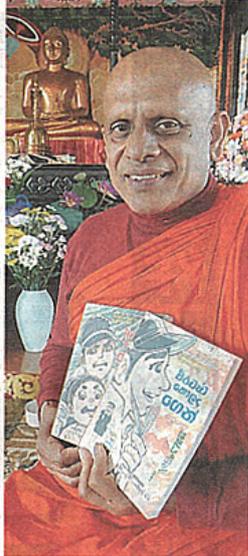
観るところ正に、スリランカの僧侶たちは仏教を継承していく役割を担っている。仏教寺院はその教場であり、スリランカの精神的な大遺産であり仏教文化そのものである。余事であるがソーマシリ師は、奉仕活動、社会貢献も数多くされている。スリランカ仏教者として、自国仏教は言うまでもなく、他事についても真摯な姿勢で取り組んでいる。この度、シャム派マルワッタッ本山より西部州(州都：コロンボ)監寺僧正として任命されることとの知らせを頂いた。

今年5月26日朝日新聞朝刊の「ひと」欄に、シンハラ語版「はだしのゲン」を刊行したスリランカ人僧侶としてタランガッレ・ソーマシリ師が紹介されました。ソーマシリ師のお名前は「わりい」にも何回か掲載されましたので記憶にある方もいらっしゃるかと思います。下記の朝日新聞(2015・5・26)の「ひと」欄によれば、ソーマシリ師は松林蓉子さんを「お母さん」と呼んでいるとのことです。(わりい会員/2011入会)

<http://www.asahi.com/articles/DA3S11773676.html>

ひと

シンハラ語版「はだしのゲン」を刊行したスリランカ人僧侶
Thalangalle Somasiri
タランガッレ・ソーマシリさん (55)



日本で心震える本に出会った。核兵器の非人道性を描く故中沢啓治さんの漫画「はだしのゲン」。シンハラ語に翻訳し、今春、スリランカで1、2巻を出版した。旧首都コロンボ郊外にある同国内有数の寺院「平和寺」住職。年に数回来日し、成田空港に近い千葉県香取市の蘭華寺で、在日同胞に布教活動する。12歳で仏門に入り、1988年、初めて来日し、東京の大法大学で学んだ。日本語の教科書や日本の昔話の本を出してきた。日本ペンクラブの正会員でもある。

故国は6年前まで四半世紀、内戦で混乱した。戦闘やテロの犠牲者は7万人超とされ、寺も一時、孤児ら約20人を保護した。「懸命に生きるゲン」の姿は、私たちに平和の尊さと勇気を教えてくれる。

昨秋、改めて広島の原爆ドームや広島平和記念資料館を訪れた。決意を固めて、翻訳に取りかかった。2時間早く起き、午前5時のお勤めまで机に向かう。作品中の広島弁や俗語などの意味は、松林さんにネット電話で教わった。3月末、蘭華寺と一緒に出版を祝った。5年で全10巻を出す予定だ。故永井隆医師が被爆体験をつづった「長崎の鐘」の翻訳にも取り組む。「平和を祈るのは宗教者の務め」

文写真 岩盛典

花と温泉を求めて—韓国低山ハイキング(下) (2015.5.27～6.3)

関根 茂子

宿に戻って荷物を回収後、バスターミナルで冷麺(@6,000ウォン)を注文、それに麺を切るための鋏がついてきた。

15:45発に乗車した路線バス(@7,000ウォン)は麦秋の麦畑と田植えしたばかりの農村地帯を走り東海岸に近い湖山(ホウサン)に16:45着。17:00発バス(@1,300ウォン)に乗り継いで17:15富邱(ブク)着。バス待合所の裏手は海でガラス水槽に魚が泳いでいる食堂が何軒かあった。

17:55発徳邱温泉(ドックオンチョン)行きバス(@1,500ウォン)で太白駅の案内所で紹介された温泉手前にある台所付き貸し別荘?(60,000ウォン)に向かう。温泉ホテルは宿泊代が高かったので諦めたのだった。

バス停で降りると近くの食堂からオバちゃんが走り出てきて、バス通り端の平屋に案内してくれた。大部屋が1つ、小部屋が3室、台所、シャワー室兼トイレという造りの戸建てだが、「大部屋を使え」と指示され、「食事は豆腐鍋(スンドゥブ)しかできない」という。仲間がシャワーを使うと少しも温かくない。3番目の私になると少しは温水になったが、トイレといっしょではシャワーでバシャバシャ流すわけにもいかない。大きなタライに湯をためるがひびわれていて漏るという始末だった。



徳邱温泉(ドックオンチョン)

そのうちにまたオバちゃんが鍵を持って「早く御飯を食べに来て」という。ささやかな夕食後、明日は、部屋に荷物を置いて山に行く了解をとる。戻るとオンドルが効いてきたのか床が熱い。少しでも涼しい小部屋に逃れて早めに寝た。

◆6月1日(晴) 6:15宿からまずはバス道路を終点の徳邱温泉に向かう。10分ほどでホテルに到着、そのまま車道を登っていくと帰路にとる尾根コースに入ってしまうようだ。「往路の沢コースはどこから?」とホテルでたずねると、ロビーを通りぬけた先が登山口とのこと、ちょうど、ガイドが宿泊客の夫婦を沢コース奥の源泉へ案内して出発するところだった。「無料で案内する」というガイドといっしょに歩き出したが(6:30)、ペースが速くて、ついて行けなかった。

花崗岩の渓谷道には次々に世界各国の有名な橋のミニチュアが現れ、渡り返しながら進む。小魚が群れ泳ぐ瀬淵で、先行の客から手渡されたお米を投げ入れるとサアッと魚が集まってきた。

流れをすぐ下に歩き続けて2つの木が途中で1つになっている連理杉の園地に着き(7:30)ひとやすみする。日本の橋はなぜか秩父の巴橋だった。次の中国の橋を過ぎると足湯と間欠泉がしつらえられた源泉園地だった(8:00)。

登山道の続きは対岸だ。飛石伝いで渡り山神閣に参拝して8:15再び歩き出す。ジグザグにひと登りすると今までの遊歩道とは違い落ち葉でふかふかの巻き道が右岸についている。

13番目の最後の橋を渡る(8:27)とアカマツとナラの急登が始まり、30分間はがんばって登り続ける。右手木の間越しに下山に使う尾根が見える。チュルチュクも出てくるが葉ばかりで花はなかった。時々、現れる赤布に書かれた数字が増えていくのを励みに小石がざらつく急斜面をもくも

くと登る。「ホホホ」と鳴く鳥の声が面白い。

「100」で山頂かと期待したのに「100」を越えても登りは終わらない。ミズナラの多い緩やかな尾根を10分も歩いて10:30ようやく鷹峰山(標高999m)にたどり着いた。東に東海(日本海)が望め、湖山にタンクが並んでいるのも見えた。下山路にとる道から単独の男性が登ってきて山頂の下の木陰を占めてしまった。私たちはその下の広場で大休止となる。

下山開始(11:07)。こちらは緩やかな尾根道だ。山頂までの距離を刻んだ石柱がところどころにあった。緩急の下りを交えてながら歩き易い道が続く。2時間も下ると緩い登りが出てきて「イヤだ」という足をなだめつつ歩いて登山口の看板地点に下りついた(13:39)。

行きに道を尋ねたホテルは入浴不可、公衆浴場のある温泉ホテルまでさらに歩かなければならなかった(13:55)。@8000ウォンの入浴料を払うと脱衣場入口でタオル2枚貸与された。洗い場手前の目籠に小さな新しい石鹸があり、それを手にして入れば、中は日本の銭湯と同じよう。カランが並ぶほか、岩盤浴・湯温の異なる浴槽・水風呂・上がり湯などがある。日帰り温泉によくあるシャンプーやボディソープの大容量は置かれていなかった。登り4時間、下り3時間弱、8時間半行動の今日の山の疲れを温泉でゆっくり癒す。

15:15宿に帰りつき、荷をまとめて16:33バスに乗車して富邱に戻る。S姉とK嬢で宿探しの結果、バス待合所近くのクリンモートル(2部屋で80,000ウォン)に落ち着く(17:10)。夕食をと待合所隣の食堂に入るが満員だった。「10分後に空く」というので、外をぶらぶらして待つ間に目にした荷台はすべてニンニクの山積みトラックにはびっくりだ。石焼ビビンバ(@5,500ウォン)は安くておいしかった。この店は朝6時から手巻きでキンパブを作ってくれることがわかり、明朝はキンパブにしようとする。ついさっき明日の朝



荷台はすべてニンニクの山積み

食にとコンビニで共同購入してしまった大入り」袋詰パンは後回しとなったのだ。

◆6月2日(曇) 6:15昨夜の店で野菜キンパブ(@3,500ウォン)を巻いてもらい、コンビニで買った朝鮮人参茶カップ(@1,200ウォン)にお湯を注いで朝食とする。このお茶がやたら甘かったのは想定外だった。

乗り込んだ富邱7:45発東ソウル行きバス(@24,800ウォン)には、すでにたくさんの人が乗っていた。湖山を通過したバスは、8:19バスチェンジとなり、海岸沿いに北上して三陟(サンチョク)8:39着。高速バスタイプに乗り換えて8:47発、9:05東海(トンヘ)インターから高速道路に入り、途中休憩10分を1回はさみ11:45東ソウルバスターミナルに着く。

大通りを渡った江邊(ガンビョン)駅で温かいうどん(@4000ウォン)の昼食後、コインロッカーを探す。最新式指紋認証のロッカー(500ウォン)に大荷物を押し込み身軽になって、地下鉄を乗り継いでソウルにある本屋と地図屋に向かう。地下鉄の切符はカード式でデポジット加算(@1,150ウォン+500ウォン)払い、使用后、カード回収機に投入すると500ウォンが返金されるのだ。

本屋では韓国200名山(14,000ウォン)を購入、店内併設の喫茶店でコーヒー(3,000ウォン)休憩後、中央地図文化社(チュンアンチド)で韓国全図

漢字版(6,000ウォン)を手に入れる。東ソウルで荷物を引き取って、これも地下鉄(@4,050ウォン+500ウォン)で仁川国際空港駅17:50着、迎えの車で仁川ゲストハウスへ運ばれ、初日と同じ部屋に落ち着いた。

最後の晚餐は肉を食べよう。1階食堂街でブルコギ3人前(47,000ウォン)と豚三枚肉2人前(16,600ウォン)を注文した。食後、スーパーeマートでお土産の韓国海苔(3,980ウォン)とトウモロコシひげ茶パック(2,680ウォン)と干し柿(9,900ウォン)を買う。現地費用20万ウォン集金のうち

9,000ウォン弱の返金あり。

◆6月3日(曇) 地下駐車場に7:50集合、他の宿泊客と同乗で仁川国際空港に送ってもらう。チェックインをして荷物を預ける列に並ぶ。結構混雑していた。手荷物・身体検査も混雑していて、係員に引っぱられて女性専用の列に並ばされてしまう。無事に通過して搭乗口ゲートで時間待ち、大韓航空KE703便1030発に搭乗して成田12:30着、小雨降る東京に帰った。

次回は鬱陵島(ウルルンド)に行つて聖人峰(ソンインボン)984mに登る予定とのことだ。(完)

◆'わんりい'活動報告

7月18日(土)・19日(日)

2015 あさおサークル祭

I「映像で見る麗しのチベット」7月18日(土)10:30~12:00 視聴覚室

II「アンデスの民族楽器・ケーナ演奏会」7月18日(土)14:30~15:30 大会議室

恒例の、麻生サークル祭は、'わんりい'は18日に絞り、午前中に視聴覚室での烏里烏沙さんのチベット紹介の講演、午後は町田市在住の若手ケーナ演奏者・山下孝之さんと山下さんが指導の教室の仲間たちによるのケーナ演奏会で参加した。

烏里さんの講演会は、もともとの予定では大型スクリーンでチベットの生活や風景、高山植物の写真を上映しながらお話しいただく予定で、チベットに関心をお持ちの20名ほどの方が出席されたが、烏里さんのPCをプロジェクターに繋ぐ段になって、麻生市民館のPCプロジェクターが旧式でUSB対応になっていないことが判明した。いろいろ試してみたが、結局、パソコンにつなぐ麻生市民館備品のプラグが適合しないことが分かった。

その様な事情で、前半は残念ながら映像はなしで、チベット

族の分布の現状とか、民族としての思いとかを、客観的な立場から話していただいた。チベットについて知られてないことが多く、興味深い話が聞けた。後半は、参加者一同が椅子を寄せて、烏里さん持参のPCの周りに集まって、本来大きなプロジェクターで見られるはずだった、チベットの高山植物の花などの映像を見せていただいた。

大きな画面で見られたら、どんなに素晴らしか



烏里烏沙さんを囲んでパソコンの写真を見る参加の皆さん

っただろうと思うと残念でならない。チベットの秘境地帯をたびたび訪れて撮影した貴重な写真を納得いく形で紹介できなかった鳥里さんとしてもどんなにか残念だったことかと思う。鳥里さんは同じプログラム、同じパソコンで、今年になって東京シャングリラホテルと練馬でスライド映写会を何の問題もなく開催し好評を博している。

麻生市民館に器材を返却する時に、御礼を言いながら、「すべてのパソコンに適應できるような万全の用意していただきたい」とお願いすると、「予算がない」と言われてしまった。

午後は、恒例の山下孝之さんのケーナ演奏会を主催した。山下さん指導のケーナ教室の生徒さんが一緒に演奏するようになって3年目、生徒さん達の上達振りもなかなか楽しかった。山下さん自身の演奏も、これまで以上にケーナの音色に相応しい雰囲気です。聴衆を魅了した。100席用意の椅子では足りず何度も増やし、150名前後の人々が楽しい午後のひと時を共有した。



【ちょっとお知らせ】

秋、恒例の「町田発国際ボランティア祭・夢広場」が11月3日(祭)にポップ町田のイベント広場で開催されます。

今年も、山下孝之さんとその生徒さんたちのケーナの演奏、そして、馬頭琴の永瀬征博さんが演奏予定です。更に、「わりい」ボイストレの講師・Emme(歌手)さんが、伸びやかな歌声を披露してください。参加の皆さんにボイストレ体験の指導をして下さる予定です。この機会に是非、ボイス

トレの楽しさを味わっていただければと思います。

「わりい」は、この機会を使って、緑、白、青、黄、黒、赤と6色あるといわれる中国茶の紹介と販売の予定です。

(詳細は10月号をご覧ください)

尚、12月6日(日)、町田市内の活動団体による祭「まちカフェ」が、町田市役所全館を使って開催されます。「わりい」も参加しますので、応援をよろしく申し上げます。
(「わりい」事務局)

ロシア映画「草原の実験」(96分) 監督・アレクサンドル・コット

第27回東京国際映画祭(2014年10月23～31日)にて「最優秀芸術貢献賞」「WOWOW賞」のダブル受賞

舞台は本来は1940年～1950年代のカザフスタンの草原のどこかという設定だが、撮影はウクライナのクリミア半島でされたという。監督のアレクサンドル・コットは1973年、モスクワで生まれた。世界が注目する新進の監督である。

果てしなく広がる草原の一軒家に住む父娘。父親は、草原のかなたに毎朝仕事に行く。いったいどこに行くのだろうか。そんな父親の世話に明け暮れる少女は、まだどこか幼さを感じさせる。そして、まるでたった今、天から地上に舞い降りたばかりのように清純で美しい。その少女の幼馴染の少年とそしてある日どこからかやってきた金髪の少年の、少女を巡る淡い恋の三角関係。そして画面いっぱいに広がる草原と青い空、スクリーン上に繰り広がる1ショット・1ショットが丁寧に撮影され胸を貫くほどに美しい。

実は、この映画にはセリフが一切ない。セリフがないからこそ見る者はそれぞれ想像を掻き立てられ、スクリーンに展開する映像に浸り、騒がしい地上を離れて暫し天に遊ぶような至福の時間を過ごせるのでは。自分もかつてはこのような時間をどこかで体験したことがあるような不思議な懐かしさを味わいつつスクリーンから目が離せなかった。

しかし、この至福の時間に続くものは…。

20世紀に入って科学は目覚ましい発展を続け、科学技術の向上はとどまることを知らない。人類は宇宙や深海へまで活動の場を広げ、生命にかかわる医療も時には神の域を犯すほどに革新的だ。しかし、この科学技術を以てしても、私たちは明日が今日の平穏に100%続くであろうとはいまだ確信できない。麗しき大自然が時折もたらす大災害の予知ができないばかりか、この科学技術こそが、日々の平穏を信じている私たちの生活を突如として奪う元凶になったりする。

(田井記)



9月下旬より、シアター・イメージフォーラムにてロードショー、以下全国順次公開
公式ホームページ <http://sogennojikken.com/>

‘わりい’は、いつでも新入会を歓迎しています。
新年度(4月)入会年会費：1500円 入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 ‘わりい’
途中入会申し込みの方は、入会時期によって割引かれますので、下記へお問い合わせください。

‘わりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると、

- ①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。
- ②‘わりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

- ◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。
- ◆町田各所でご自由にとって頂けます。上記へお問い合わせください。

うりうさ
【烏里烏沙・チベット山岳写真展】

写真家であり、探検家でもある烏里烏沙さん撮影のチベット奥地の写真パネルを、50枚以上展示。

会場：山西省友好記念館神怡館 <http://www.shenyi.jp/>
〒368-0201 埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄2245

会期：9月12日(土)～11月3日(火) 9:00～17:00

休館日：(10月27日と火曜日、祝日の翌々日休館)

入館料：一般200円、小中学生120円

未就学児・障害手帳をお持ちの方・学校での利用は無料

▲問い合わせ/ ☎0494-79-1493/ FAX0494-79-1489

▲E-Mail : oganoshinkou@rhythm.ocn.ne.jp

【烏里烏沙】十数年の間に、数十回にわたってチベットを巡り、独自の視点で撮影した写真展を数多く開催し、積極的にチベット僻地の人々の生活を紹介している。和光大学表現学部 1998年卒業。NPO 法人チベット高原初等教育・建設基金会理事長として、厳しい自然・社会的条件にあるチベット高原の未就学児童のため、学校のない地域に小学校を建設する事業を展開した。



ナムチャバルワ



グゲ王朝遺跡

そう せつしやう
曹雪晶 (Cao XueJing) 二胡演奏会

<http://kanack-hall.jp/calendar/2015/09/016946.html>

中国伝統楽器・二胡と揚琴、そしてピアノの演奏とともに悠久の音色に心を癒す



曹雪晶 (二胡) 鄭宇 (揚琴) 多田聡子 (ピアノ)

● 2015年9月22日 (祝) 15:00開演 (開場 14:30)

● かなっくホール (横浜市神奈川区東神奈川1-10-1)
JR. 京浜東北線・横浜線「東神奈川駅」隣接 (駐車・駐輪不可)

演奏曲：シンドラーのリスト/チャールダーシュ / 蘇州夜曲/ 万馬奔沸/ 光明行/ 葡萄熟了 ほか

全席自由：3,500 [発売中]

チケット：Eプラス (PC・携帯) <http://eplus.jp>

◆わんりいの催し 中国語で読む・漢詩の会

漢詩で磨く中国語の発音! 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう!!

▲日時：9月20日(日) 10:00～11:30

▲会場：まちだ中央公民館 第3・4学習室

▲講師：植田渥雄先生

(現桜美林大学孔子学院講師)

▲会費：1500円 (会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：20名 (原則として)

* 録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎090-1425-0472 (寺西)

E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp (有為楠)

※ 10月の講座は都合によりお休みします。

◆わんりいの催し **ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう!**

あなたも私も笑顔が美しくなる! 身体の力を抜いて、気持ちよく発声しよう!!

▲9月の講座：

9月15日(火)/和光大学ポプリホール・リハーサル室
(小田急線鶴川駅北口徒歩3分)

▲10月の講座：

10月18日(火)/町田市民フォーラム・視聴覚室
10月27日(火)/まちだ中央公民館・視聴覚室

▲時間 10:00～11:30

★動きやすい服装でご参加ください

●9月の練習歌「心の瞳」

●講師：Emme(歌手)

●会費：1500円 (会場使用料・講師謝礼など)

●定員：15名 (原則として)

◆申込み：☎042-735-7187 (鈴木)

E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp (わんりい)



2015年9月定例会及び10月号おたより発送日

会員の皆さんはどなたでも参加できます

◆9月定例会：9月23日(水) 13:30～

場所：三輪センター・第3会議室

◆10月号おたより印刷・発送

10月1日(木) 10:30～場所：三輪センター・第3会議室※ おたより発送日はお弁当を持参ください。 問合せ：042-734-5100 (田井)

【第11回 日中水墨協会展】

'わんりい' 会報にイラストを描いてくださっている満柏画伯指導の水墨画教室の皆さんの作品展です。

● 相模大野ギャラリー

(相模大野駅北口3分/伊勢丹相模原店隣接/相模原市南区相模大野4-5-1-201 ☎042-744-6639)

初日：10月1日(木) ……14:00～18:00

10月2日(金)・3日(土) ……10:00～18:00

最終日：10月4日(日) ……10:00～17:00

● 主催：日中水墨協会(横浜市中区西竹之丸43-3)

● 問合せ：☎/Fax：045-664-3789



平成27年度(第70回)文化庁芸術祭主催公演

アジア オーケストラ ウィーク2015 ～わかちあうシンフォニー アジアをつなぐ～

<http://www.orchestra.or.jp/news.cgi?oid=ajso&date=2015/07/06&subid=1>

● 会場：東京オペラシティコンサートホール(19:00開演)

東京都新宿区西新宿3-20-2京王新線初台駅東口徒歩1分

▲10月5日(月)中国国家交響楽団、▲10月6日(火)テジョン・フィルハーモニック管弦楽団(韓国)、

▲10月7日(水)大阪交響楽団

● S席=3,100円 ペア券(S席2枚)=5,000円/A席=2,060円/B席=1,030円

3公演セットS席=7,000円、3公演セットA席=5,000円 ※全席指定

3公演セットはチケットぴあのみの取り扱いです。t.pia.jp 0570-02-9999 (Pコード：270-123)

<http://ticket.pia.jp/pia/ticketInformation.do?eventCd=1531440&rlsCd=001>

● 問合せ：日本オーケストラ連盟 ☎03-5610-7275(平日：10:00～18:00)

第25回中国文化之日

ぼうつか 四川棒遣い人形劇

川劇の秘技・変面や雑技、立ち回り
等多彩な演目を人形が演じる

● 日中友好会館美術館・大ホール <http://www.jcfc.or.jp/>

〒112-0004 文京区後楽1-5-3 ☎03-3815-5085

▲10月23日(金) 19:00

▲10月24日(土) 13:30/18:30

▲10月25日(日) 13:30

● 前売券：1,000円(全席指定)

● チケット：Eプラス(PC・携帯) <http://eplus.jp>

直接購入：ファミリーマート▲9月1日前売り開始

● 主催：(公財)日中友好会館、資中木偶劇団



【四川棒遣い人形展】 入場無料

● 日中友好会館美術館

▲10月1日(木)～25日(日) 10:00～17:00

※火曜日休館上記公演中は上演終了後まで開館

▲美術館イベント

人形制作師による制作実演

10月23日(金) 14:00～14:30(参加自由)

● 問合せ：☎0-3815-5085(平日9時～17時)

(公財)日中友好会館文化事業部

今年の夏は、世界的にも記録的な暑さだったようです。皆さん、元気でしたか。秋に向かって、'わんりい'も新たな活動へ発進したいと思っています。ご協力とお力添えをよろしくお祈いします。

'わんりい' 206号の主な目次

北京雑感96「北京の花」……………	2
論語断片⑨「敬せずんば何を以て別たんや」……………	3
媛媛讲故事(76)「白狐」II……………	4
諺・慣用句(42)「杞憂」……………	6
詩人尹世霖の童詩の世界⑩「台風」……………	7
鄧さんの観光ガイド④「天竜山石窟」……………	8
中国の笑話……………	9
「お・も・て・な・し」で観光立国……………	10
フィリピン滞在記⑨「フィリピン料理は単純だが奥が深い」……………	12
スリランカ紀行①「スリランカの日曜学校と仏教」……………	14
花と温泉を求めて 韓国低山ハイキング(下)……………	16
活動報告「2015 あさおサークル祭」……………	18
ロシア映画「草原の実験」……………	20
'わんりい' 掲示板……………	21・22